

へ其の時に爾義の祭 献物と燔祭とを
喜び饗けん其の時に人々爾の祭壇に犠を
奠えんとす。

エフレムの祝文

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と
陵駕と空談の情を我に與ふる勿れ。

大拝一次

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の

僕(婢)に與へ給へ。大拝一次

嗚呼主王や我に我が罪を見我が兄弟
を議せざるを賜へよ。蓋爾は世々

に崇讃めらる「アミン」大拝一次
神や我罪人を浄め給へ十二次、毎次

小拝

主吾が生命の云々

常に福

常に福にして全く玷なき生神女吾
が神の母なる爾を福なりと稱ふる
は眞に當れりヘルウイムより尊くセ
ラフイムに並びなく榮え貞操を壊ら
ずして神言を生みし實の生神女た
る爾を崇讃む

清め給へ蓋我は我が不法を知る我の罪は
常に我が前に在り我は爾獨爾に罪を
犯し悪を爾の目の前に行へり爾は爾の審
断に義にして爾の裁判に公なり夫れ我は
不法に於て妊まれ我が母は罪に於て我を
生めり夫れ爾は心に眞實のあるを愛し我
が衷に於て智慧を我に顕せり「イソプ」を
以て我に沃げよ然せば我潔くならん我
を滌えよ然せば我雪より白くならん我に
喜びと樂とを聞かし給へよ然せば爾に折
られし骨は欣ばん爾の顔を我が罪より避
け我が蓋くの不法を抹し給へ神や清潔き
心を我に造り正直き靈を我の衷に改め給

へ我を爾の顔より逐うこと勿れ爾の聖神
を我より取り取り上ぐる事勿れ爾が救ひ
の喜を我に還し主宰たるの神を以て我を
固め給へ我不法の者に爾の道を教へん不
虔の者は爾に歸らんとす神や我が救ひの
神や我を血より救ひ給へ然せば我が舌は
爾の義を讃揚げん主や我が唇を啓けよ然
せば我が口は爾の讚美を揚げんとす蓋
爾は祭を欲せず欲すれば我之を獻らん
爾は燔祭を喜ばず神に喜ばるゝの祭は痛
悔の靈なり痛悔して謙遜なるの心は神や
爾輕じ給はず主や爾の恵に因て恩をシ
オンに垂れイエルサリムの城垣を建て給

天の王

天てんの王おう慰なぐさむる者ものや眞實しんじつの神しん在あらざる
 所ところなき者もの満みたざる所ところなき者ものや萬全ばんぜん
 の寶藏ほうぞうなる者もの生命せいめいを賜たまふの主しゅや來きたり
 て我われ等らの中うちに居おり我われ等らを諸もろ々の穢けがれ
 れより潔いさぎよくせよ至し善者ぜんしゃや我われ等らの靈たましい
 を救すくい給たまへ

天主經

天てんに在います我われ等らの父ちちや願ねがはくは爾なんぢの名なは
 聖せいとせられ爾なんぢの國くには來きたり爾なんぢの旨むねは

天てんに行おこなはるるが如ごとく地ちにも行おこなはれ
 ん我われが日用にちようの糧かてを今こん日にち我われ等らに與あたへ
 給たまへ我われ等らに債おひめある者ものを我われ等ら免ゆるすが
 如ごとく我われ等らの債おひめを免ゆるし給たまへ我われ等らを誘いざな
 いに導みちびかず猶な我われ等らを凶惡きようあくより救すくい
 給たまへ。蓋けだ國くにと權能けんのうと光榮こうえいは爾なんぢに世世よよ
 に歸きす。「アミン」

第五十聖詠

神かみや爾なんぢの大おほいなる憐あはれみに因よりて我われを憐あはれみ爾なんぢ
 が恵めぐみの多おほきに因よりて我われの不法ふほうを抹けし給たまへ屢しば
 々く我われを我われが不法ふほうより洗あらい我われを我われが罪つみより

信經

我信ず一の神父全能者天と地見ゆ
 ると見えざる萬物を造りし主を。又
 信ず一の主イエスハリストス神
 の獨生の子萬世の前に父より生ま
 れ光よりの光眞の神よりの眞の神
 生まれし者にて造られしに非ず父
 と一体にして萬物彼に造られ我等
 人々の為又我等の救の為に天より
 降り聖神及び童貞女マリヤより身を
 藉り人と為り我等の為にポンテイ
 イピラトの時十字架に釘うたれ苦

しみを受け葬られ第三日に聖書に
 叶うて復活し天に升り父の右に坐
 し光榮を顕して生ける者と死せし
 者を審判する為に還た來りその國
 終りなからんを。又信ず聖神主生命
 を施す者父より出で父及び子と共
 に拜まれ讃められ預言者を以て嘗
 て言いしを。又信ず一の聖なる公な
 る使徒の教會を。我認む一の洗禮以
 て罪の赦を得るを。我望む死者の復
 活並に來世の生命を。「アミン」